

総務常任委員会

幸手市税条例等の一部を
改正する条例
(議案第82号)

問 スイッチOTC薬について、幸手市でこの薬を利用されている方は何名いるのか。

答 OTCとはオーバー・ザ・カウンターの略で、まちの薬局のカウンター越しに売られる薬、つまり市販薬なので、薬局へ行って買える薬である。

スイッチOTCに指定されているものが約1500種類あり、イブやロキソニン、水虫の薬など、そういうものほとんどを含む。該当者数については把握していないが、薬局で買えるものなので、ほとんどの方が購入されているかと思う。

問 市販薬を買って医療費控除を

つけるということは、医者にかかると部分を減らそうという考えなのか、単に両立させてどちらでも控除できるということか。

答 これは国が考えた制度だが、医療費を減らそうという考えだと考えたと思われる。



問 周知徹底の仕方はどのようにするのか。

答 広報紙およびホームページ等で広報していく考えである。

平成28年度幸手市一般会
計補正予算 (第4号)
(議案第85号)

問 ふるさと納税の減額理由は。

答 昨年度と比較して、平成27年度の上半期が約1900万円、平成28年度の上半期が550万円、約29%の寄附率であることから、今後の見込みを立てて、2千万円の当初予算計上したが、それに至らないため、減額をした。

理由としては、従前のとおり寄

附の募集をしていたが、今年度は幸手市がテレビ放映されるに当たり、昨年度の寄附者にテレビ放映されることに加えて今年も寄附のお願いという趣旨のはがき等を送った経緯はあるが、思ったほど数字が伸びなかったのが現状である。

この分析については、いろいろ考えられるが、幸手市では、玄米17キロ、精米15キロの記念品を差し上げているが、全国的に見ると多い自治体では、1万円20キロの記念品を差し上げているところもある。幸手市を上回る記念品を出すところが出てきている現状があると見ている。

問 ふるさと納税というものに対してどのような見解を持っているのか。

答 ふるさと納税が、本来の趣旨とは少し違った形で全国的に展開して、ふるさとを思う気持ちの寄附というより、記念品を目当てに加熱状況にあるのが現実である。

幸手市としては、貴重な財源として今までも考えてきたところであるが、全国的なそのような状況で、果たして記念品を増やすのが良いのか考えている。

また、国からもあまり豪華な記

念品は辞めるよう通知が出ている。そこを十分見極めながら対応を考えていく。

問 企画費の3世代ファミリー定住促進事業の補助金が増額補正であるが、補助金を受ける件数が増えたということか。

答 この3世代ファミリー定住促進事業の補助金については、1件の補助額の上限が50万円、6件を見込んで当初予算300万円を要求していたが、10月の補正予算編成時点で残金が74万円ぐらいになったので、資金に不足が見込まれた。今後、4件分の200万円執行できるよう予定し、不足する130万円の補正をした。

問 債務負担行為の園児送迎バス運行事業の平成28年度当初予算との相違は。

答 設計を組む段階と入札で落札した金額の差が出てきたことに加えて、バスの旅行運行が新潟の長距離バスの事故があった関係で、時間単価や人の単価が大幅に上がっている状況があったので、設計単価自体も上がっている要因と考える。

文教厚生常任委員会

工事請負契約の変更について
(議案第84号)

問 変更理由に、第二保育所建設発生土の搬出先変更に伴う重機等の追加による増額とあるが、その内容は。

答 重機は、当初1台で8日間の設計を組んでいたが、発生土の混合物をふるいにかけるための1台追加し、中川の置き場に土を搬入する際にも1台追加し、合計3台が必要となったことによるもの。

問 変更契約に至った理由と経緯について。

答 平成26年度に、建設工事基本設計業務の中で地質調査などを行うが、液状化の確認ということで分からなかった。翌年、建設用土の土壌検査を行うが、土壌成分の調査で知り得なかった。そして実際に土を搬出するにあたり、混合物が存在していることに気づいた。当初搬出を予定していた搬出先は、混入物を取り除かなければなら



一部にあった混入物

らないため断念し、春日部市の中川にある残土置き場へ、搬出先を変更したが、県から、大きく目立つような混入物については取り除いていただきたいとのこと、大きなものを取り除かなければ搬出できなかった。
なるべく経費を削減したいというところで中川の方に運ぶ、そのためにはふるいをかけなければいけない、ふるいをかけた折には体積が増えてしまったという経緯がある。

平成28年度幸手市一般会計補正予算
(第4号)
(議案第85号)

問 障害児通所給付費の実績が予定より増加した理由は。

答 放課後等デイサービスの施設が、平成27年10月に1カ所、28年2月に1カ所が市内にできたことで、利用者がかなり利用しやすくなったことによるもの。

問 行幸小学校校舎大規模改修工事の実施時期は。

答 この工事は、県との情報や意見交換の中で、来年度の補助採択が非常に厳しい状況であること、国の今年度補正予算で若干の追加の採択があることで、手を挙げた。現状は補助採択されるか未定だが、補助採択されない場合は、未執行として、来年度、再度申請する。また、補助採択された場合は、3月に繰越明許費を設定し、来年度の夏休みに工事を実施したい。



平成28年度幸手市介護保険特別会計補正予算
(第2号)(議案第86号)

問 高額介護サービス費、および高額介護予防サービス費の増額内容は。

答 事業計画上は両方を合計して予算を組んでいるが、実際は、要支援者の高額介護予防サービス費の支給対象となった人が、増加したことによるもの。

問 介護予防サービスの内容は。

答 介護予防サービス費の中には、通常、要介護認定者が使うような訪問介護、通所介護もある。その他に、地域密着型のグループホーム、要するに認知症対応型のグループホームなども要支援2の方から入れたり、リハビリ関係のサービスもある。そういうところで、自立を目指すような、促すようなサービス提供があるということ。



建設経済常任委員会

平成28年度幸手市一般会
計補正予算 (第4号)
(議案第85号)

問 農林水産業費の機構集積協礼金補助金の交付時期が3月とされるが、交付時期については農家の実態を把握した中で検討すべきでは。

答 今回は12月末までの地代が対象で、年度末に県から市に交付される。交付時期については、今後関係方面に働きかけていきたい。

問 新規就農総合支援事業補助金の対象者数と栽培品目は。

答 対象者は1人で、野菜を中心に栽培される予定である。

問 土木費の土木施工管理専門員の業務内容と1人分減額の理由は。

答 土木工事の施工管理、土木工事施工管理に係る指導に関することが主な仕事である。平成27年度は道路河川課とまちづくり事業課

に2人を任用していたが、平成28年度は欠員が生じた。最終的に道路河川課1人の任用となり、1人分を減額するものである。

問 2人任用枠はきちっと確保されるべき重要ポストではないのか。

答 1人については昨年度末になって継続任用ができない事情が発生。年度当初から超えて時間がなく、今年度については減額となる。

問 古川橋架替工事に係る国庫補助金減額と道路舗装費増額の関係性は。

答 国の交付メニューは3つあり、当初、古川橋架替3億6400万円、橋りょう長寿命化調査設計業務委託1286万円、市道舗装工事6400万円を工事費として交付要望したが、最終的に交付決定された内示金額が1億2586万円となった。すべてを古川橋に注ぎ込んでも当初の橋台2基分の工事費に及ばないことから内示額に合わせて事業を見直し。橋台1基分の事業費1億7千万円に対する

補助率55%分が9350万円。市道1-2号線の道路舗装は、補助金を全部使い切るため、橋台1基分工事と橋りょう調査の入札執行残を合わせて充当した。



橋台工事の始まった古川橋

問 古川橋架替工事は、今年度は橋台2基が1基となり、補助金55%での見直しができたが、実際には3割弱しかついでいていない補助率で工事完成までいくと、いずれ最終段階では一般財源で補てんしないと橋は完成しないということになるのでは。

答 最大限補助割れがないよう要望して行くが、重点プロジェクトで示した終期に工事が終わるよう、補助金が補助割れした場合は一般財源を充当する。

問 市道1-19・20号線開通記念式典の委託内容は。

答 協力地権者および関係者約100人規模を想定。企画運営は職員で、委託は主に機材等のリース代。

問 圏央道本体の記念式典とは別に100万円をかける必要性、近年の市道開通式典の開催状況は。

答 約12年に及ぶ長期事業の完成記念として企画。近年では幸手駅東口駅前広場の完成時に開催した。

問 公園等長寿命化工事設計業務委託が新たに予算化された理由は。

答 来年度上半期での工事発注に向け、公園等長寿命化工事の執行残を活用して設計業務を予算化した。

問 公園遊具等補修工事費200万円の工事内容は。

答 今年度から遊具点検の判断基準が一部改定に。使用不可となった遊具の補修について指定管理者が実施した法定点検の中で調整し、指定管理と別に市が補修するもの。